



通級による指導 (対象者数)												
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	8	1			1	1		2	15	

※特別支援学級の対象としている障害種：自閉症・情緒障害 1

指定校名：芹田小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	133	4	107	4	114	4	105	3	120	4	115	4
特別支援学級	1		3		4		3		5		2	
通級による指導 (対象者数)									1			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	26	1	6		2	3		1	41	

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害 1、自閉症・情緒障害 2

指定校名：豊野西小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	46	2	49	2	57	2	58	2	50	2	54	2
特別支援学級	1		5		1		4		7		1	
通級による指導 (対象者数)							2					
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	2		1	2		2	25	

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害 1、自閉症・情緒障害 2

#### 4. 指定校における取組概要

(1) 発達障害支援アドバイザー (3名) の活動 (1月末現在)			
研究校 12校 (小10 中2)			
訪問回数 428回 1校平均 35.7回			
最多校 130回 最少校 1回			
(2) 運営委員会等			
期日	運営委員会	担当者会	アドバイザー連絡会
6月9日(火)	第1回	第1回	
7月28日(火)	研修会 「読み書き状況把握ツール」の利用と実践 長野県飯田養護学校教頭 堀内 澄恵 氏 市内小中学校より 32人参加		
8月7日(金)		第2回	
9月2日(水)	事業連絡会 (文部科学省)		事務局より 2名出席
11月5日(木)	第2回	第3回	

	1月8日(金)			第1回
	1月14日(木)		第4回	
	2月1日(月)	事業報告会(文部科学省)		事務局より1名参加
	2月15日(月)	第3回		

## 5. 主な成果

<p>(1) 教室環境の配慮について、学校全体の意識が高まってきた。</p> <p>視覚的な刺激を減らす努力をしている。また、教室の生活音を減らすために、椅子の脚にテニスボールを取り付けている学校もある。それらは、目的を職員が理解し、時には、児童生徒や保護者にも必要性を伝えていくことで、多様な人々がともに暮らす共生社会の実現につながっていくと思われる。</p> <p>学校全体で、環境や授業のユニバーサルデザイン化に向けて、チェックリストを作成し、教員が自己評価を行う動きもある。</p> <p>(2) 授業のユニバーサルデザイン化への取り組みが進みつつある。8校が研究授業を行い、成果を報告している。授業の流れ、資料の提示、追求場面での個別的な支援等、教師が授業を参観し、討議することで、互いの支援力の向上を目指している。授業で対象となる子供の姿を観察することを通して、子供の困り感に寄り添う視点が養われた。</p> <p>(3) アセスメントを実施する学校が増えた。発達障害アドバイザーの支援を受けて、困っている子供たちへの検査を実施している例が多数あった。これは、保護者と学校とが連携し、合意形成ができてきたことも関係している。アセスメントの結果を受けて、一人ひとりつまづきを予測し、授業の中で個別の支援につなげることができた。学年全体で、視知覚検査に取り組んだ例もある。</p>
--

## 6. 今後の課題と対応

<p>(1) 「困っている子供」の発見と早期支援に向けて</p> <p>幼稚園・保育園との連携、新1年生へのスクリーニングチェックの実施等、実施はわずかにあるが、学校規模等の条件が異なるために、同じやり方を統一して行うことは困難である。それぞれの学校で、自校に合った方法で「困っている子」を発見し、早期から支援する体制を次年度で明らかにしたい。</p> <p>(2) 学校全体での取り組み</p> <p>研究授業を通しての研究は、とかく授業者だけの努力に終始しがちである。学校全体でどのような取り組みがなされたのか、向上しつつある点はどこか、職員の支援に関する自己チェックや、学校評価との関連等、学校の全体の支援力について、明らかにしたい。</p> <p>(3) 情報の共有</p> <p>インシデントプロセス法による児童理解の場を作ったり、フットワークシートや個別の指導計画を作成して、支援の継続性を図っている学校があった。支援情報が、実際のツールとして活かされている事例をさらに積み重ねたい。</p> <p>(4) 研究成果の共有</p>
---

各校の研究内容については、「研究報告書」を冊子にして、市内小中学校へ配布した。また、市内の小中学校がインターネットを通じて閲覧できるポータルサイトに掲載した。今後、研修等で紹介していく予定である。

## 7. 問い合わせ先

組織名：ながのしきょういくいんかい長野市教育委員会

- (1) 担当部署 学校教育課
- (2) 所在地 長野県長野市鶴賀緑町 1613 番地
- (3) 電話番号 026-224-5063
- (4) FAX 番号 026-224-5086
- (4) メールアドレス [gakukyou@city.nagano.lg.jp](mailto:gakukyou@city.nagano.lg.jp)